東京 ⇔ 笠原情報誌　MAIL 版　＜No.114＞　2007 年 3 月 2 日

みのEDO

発行：笠原・美濃焼振興協議会
☎0572-43-2141
発信：笠原・東京情報局
☎03-5330-1686

笠原セミナーのご案内

～近代建築にみられるタイルの表現～

笠原セミナー3月29日に開催

日本の近代建築を豊かなものにした「タイルの役割」について
大阪歴史博物館学芸員酒井一光氏に講演をお願いしています。

【 テーマ 】～ 近代建築にみられるタイルの表現 ～

タイルは日本の近代建築にとって、欠かすことの出来ない材料です。日本における初期洋風タイル（輸入タイル）の使用例は、泉布観（せんぷかん）をはじめとする洋館の暖炉周りにみられます。また、伝統的な技術でつくられた本業敷瓦は、各地の町家の風呂場やお手洗いに使用され、現在も見ることができます。さらに時代が下ると、国産タイルが普及し、建築の内・外装材として、タイルは建築デザインの主役の座を占めるようになりました。今回は、日本の近代建築を豊かなものにしたタイルの役割について、写真を多用してご紹介します。

【 講 師 】 大阪歴史博物館 学芸員 酒井一光（さかいかずみつ） 氏

プロフィール　専門：建築史　昭和 43 年（１９６８）生まれ。
著書に『窓から読みとく近代建築』、共著に『大阪のひきだし』ほか。現在『月刊タイル』、『月刊大阪人』にて連載中。昨年、博物館で特別展『煉瓦のまち　タイルのまち―近代建築と都市の風景―』を開催するなど、近代建築、タイルの分野他で活躍中。

日　　時	平成１９年３月２９日（木）　午後７時～９時
場　　所	多治見市笠原消防会館　２階　第１会議室
定　　員	４０名（定員になり次第締め切ります）
締め切り	３月２０日（火）
主　　催	笠原町美濃焼振興協議会
問合せ先	笠原陶磁器工業協同組合　ＴＥＬ４３－２１４１　ＦＡＸ４３－２１４３